

的外

みのる法律事務所 便り
令和7年10月第426号



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950

い な べ ん だ べ ん く
田舎弁護士の駄弁句

197



どう生きる 聴きたかったね お二人に



投票前の 5分演説

令和7(2025)年10月4日
あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

5分間に限った演説というのは興味があります。小泉さん(45歳)と高市さん(65歳)は、5分間で何を話すのでしょうか。総裁選ですから、政治的な話になるのでしょうか…。

ですが私個人としては、45歳という若い小泉さんと、83歳の私と比べれば若い65歳の高市さんが、どのように生きたいと考えているのかを聴きたいのです。

生き方、つまり死に方の話を聴きたいというのは、まだまだ若い二人に要求するのは無理でしょうか。二人の口からは、それは聴くことはできませんでした。仕方がないでしょう。死ぬことなど、まだ考えていないでしょう。いまは、やる気だけでしょう。

ですが本当は、自分はどう生きたいか、身近な人のために、世の中の人のために、国民のために、世界人類のために、どのように生き、死んでいきたいのかということを、若い二人の総裁候補者の口から5分間で話してほしかったのです。

『人間はどう生きるべきか』ということに対し、しっかりした哲学を確立し、『人間は、こう生きなければならない』という『究極の生き方のハカリ』を持っている方の出現を期待しているのです。目先の損得や、権力の取り方などの話より、人間の生き方を聴きたいのです。

小泉さんにも、高市さんにも、どう生きたいのかを聴いてみたいです。人生100年時代の人間の生き方について、どういう考え方で、国と国民の先頭に立って舵を取っていききたいのかを聴いてみたいです。

5分でも 語り尽くせる その思い

いつも本気で 考えていれば



令和7(2025)年10月4日
あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

83歳まで生かされてきました。『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『田舎弁護士の哲学』を確立し、その哲学を実践するための駄弁本を26冊発行し、今年に入ってから、『生き方のハカリ』シリーズ3冊を脱稿しました。

5分間で自分の信念を語り尽くせと言われれば、『田舎弁護士の哲学』を実現するために、『自分が幸福となれるかどうか、他人を幸福にすることができるかどうか』という『究極の生き方のハカリ』を心と頭に叩き込んで、そのハカリに添う生き方をするのみ、という信念を語りたいのです。

83歳となる今日まで、物心がついてからは、「人間はどう生きるべきか」ということを本気で考え続けてきましたので、その間に対しては、1分でも、5分でも、1時間でも、10時間でも、1日でも、1週間でも、1か月間でも語れます。

いくらでも語れるし、書けるのです。それ位真剣に「人間はどう生きるべきか」という問題を考え続けて生きてきたのです。

一党の総裁や、一国の首相などに立候補するような志の高い人は、「人間はどう生きるべきか」ということは、普段から考えていなければならないことだと確信します。

私から見れば、38歳も若い小泉さん、18歳も若い高市さんは、「人間はどう生きて、どう死んでいきたい」と思っているのかは是非聴いてみたいのです。いつも本気で考えていれば、5分間あれば十分に語り尽くせる筈です。

決選投票の結果は、高市さんが勝ち、自民党の執行部もほぼ決まったようです。誰が高市さんを応援したかなどということで人事を決めることがあることは、人間の持つ人情という一面からは分からないこともないのですが、究極においては、「人間を幸福にできるかどうか」というハカリではかつて決めてほしかった気がします。

政治家の皆様、「人間はどう生きるべきか」ということを考えてみて下さい。そこを本気で考えなければ、権力争いという次元の話で終わってしまいます。

自民党総裁選決選投票前の5分間演説に思う。

昼寝から目を覚まし、テレビのスイッチを入れたら、自民党総裁選挙の決選投票前の小泉進次郎さんと高市早苗さんの5分間の演説が始まるころでした。テレビの解説者の話では、二人共事前に練りに練っていたようです。5分間でどんな話をするのだろうかとか興味が湧きました。

二人の演説に対する感想はありますが、ここではそれを語ることはしません。ですが私だったら、『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『田舎弁護士の哲学』を実践するために、『自分が幸せになり、他人を幸せにできるかどうか』という自分の心の中にある『究極の生き方のハカリ』ではかって、「自分を、身のまわりの人を、世間の人を、国民を、全人類を幸福にするために、どうしたらよいかということを考え、その考えを実現するため命をかけたいのでやらせてほしい」と語るような思いが瞬間的に頭に浮かびました。

80歳を超えた現在の私は、改めて事前に練る必要などなく、5分間丁度でそのようなことを言い切ったという気がします。私は自分がどう生きたいか、自分はどうしたいのかということは確立できているのです。いまさら考えを練らなければならぬなどということはないのです。80歳を超えたら、そうなっていて当然です。

演説のために改めて考えなければならないなどという必要はないのです。政治家を目指す人、まして第一党の総裁や一国の首相を目指すような人は、普段から信念、つまり損得や理屈を超えてかたく思い込む心というか、それが正しいとかたく信じて疑わない心を持って、それに従って行動しなければならないのです。その時々状況に合わせて言うことが変わるようではならないのです。信念を持っていなければならないのです。

自分の心の底にある、自分はこのように生きるという考え方が確立していれば、その根底にある自分の生き方は、ここにあるということを5分間という許された時間で、自民党総裁選挙で一票を投じることのできる選挙権者に訴え、自民党党員に訴え、世の中に訴え、日本国民に訴え、全人類に分かってもらえるように語ることはできる筈です。

これは難しいことではありません。5分で語れと言われれば5分間で、1時間で語れと言われれば1時間で、10時間で語れと言われれば10時間で語れるのです。83年間も生かされた身としては、長い年月にわたって、自分は一度限りの人生をどう生きるべきかを考えに考え抜いて生きてきたのですから、その考えはできています。いくらでも語れるのです。80歳を超えたら、それができていなければおかしいのです。

1分で語れと言われれば、『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『田舎弁護士の哲学』を実践するために、『自分が幸せに

なり、他人を幸せにできるかどうか』という『究極の生き方のハカリ』ではかつて生きていくということに話は尽きるのです。

それを10時間で語れと言われれば、^{あしし}物心がついた頃からこれまでの人生を振り返り、そのような考え方に至った経緯を交えて話すことになります。話のタネはいくら話しても尽きないのです。1か月かけてもよいと言われれば、1冊の駄弁本として発行することもできます。何年かけてもよいとなったら、毎月1回ずつやれる間はいつまでも研修会を続けることもできるのです。

自民党総裁選挙の決選投票前の小泉さんと高市さんの演説の時間が、それぞれ5分間という短い制限時間だと知って、それぞれどんなふうに語るものかと駄弁本を書いたり、講演をしたり、研修会で話したりする身としては、大変興味がありました。さすがに二人共しっかりと言いたいことは言い切ったと思われます。はっきりと、しっかりと語り切ったように見えました。二人共スマートでした。うまい話し方だと感心して聴きました。

私個人としては、二人共「人生はどのように生きるべきだ」と考え「^{ほんね}国民一人ひとり、人類一人ひとりにどう生きてもらいたい」と考えているのかを、泥臭くともよいから本音を聴かせてほしかったという思いが残りしました。そこまでは聴き取れなかった気がします。

アメリカ大統領のトランプさんの話はコロコロ変わり、政治家の話とは、そういうものなのかという気がすることもありますので、小泉さんも高市さんも何を言ってもびっくりはしませんが、政治家というのは、その時その時の状況で、何を言っても許されるものでしょうか。トランプさんの話などは、本音はどこにあるかさっぱり分かりません。コロコロ変わり、何を信じたらよいのかが伝わってこないのです。

83歳まで生かされてきて、人に、世の中に、人類に、本当に何を伝えたいかと問われたら、究極としては、『田舎^{かな}弁護士^{ほんね}の哲学』を実現するために、自分の心の中にある『究極の生き方のハカリ』に^{かな}適う生き方をしたいし、まわりの人皆にもそうしてもらいたいということを伝えたいということに尽きます。私ならいつでも、どこでも、そう話すと思います。

日本国の比較第一党の党首選挙における決選投票前の小泉さんと高市さんの最後の各5分間の演説をテレビで聴き、自分がその立場だったら、どんな話をするだろうかという思いが湧いた瞬間に、自分ならそういうことになるとすぐに回答が出てきました。

何の意味もありませんが、「自分はどう生きるべきか」ということは、これまで考えに考え抜いて現在に至^{いた}っていますので、こういうことは瞬間的に何の抵抗もなく頭に浮かんできます。折角頭に浮かんできましたので、忘れないうちに書いてみました。幸齢者は最近のことはすぐに忘れてしまいますので…。

新刊書の謹呈とご案内



生き方のハカリ（3）―田舎^{い な べ ん}弁護士が使っている生き方のハカリ―

『生き方のハカリ』シリーズ3部作が完成しました。第1巻『生き方のハカリ(1)―その意義と理念―』、第2巻『生き方のハカリ(2)―世の中で使われている生き方のハカリ―』、第3巻『生き方のハカリ(3)―田舎^{い な べ ん}弁護士が使っている生き方のハカリ―』が発行され、これで完成ということになります。

どれも駄弁本であり、無駄なおしゃべりというレベルの内容ですが、83年間も生かされた老弁護士が普段真面目に考え抜いてきた「人間はどう生きたらよいか」ということを、『生き方のハカリ』という形にしてまとめたものです。つまり、「人間はこう生きるべきではなかろうか」ということを83年間も考えてきたことをまとめてみたものです。内容はありきたりのごく当たり前で、つまらない内容となっていると思いますが、自分としては思うことをそのまま述べましたので、これがいまの自分の生き方ということになります。いつでも、どこにいても変わらない真理だと確信しています。

「どのようなハカリではかって、この世の中を生き抜いていったらよいか」ということは、物心がついてからは毎日無意識の中でも考え行動してきたと思います。体調は医療機器などのハカリではかってその結果を見て対応してきましたが、形に表れない心の中のことは、自分の心の中にハカリを作って、そのハカリではかりながら、どうすべきかを決めてきたと思います。

そういう作業は83歳という高齢者となった今日まで、毎日事ある度に心の中にある生き方のハカリを使ってはかりながら生きてきた筈なのですが、これまでそのハカリについては、改めて掘り下げて考えることはしていませんでした。

80歳を超えましたので、自分なりに「どのようなハカリではかって、この世を生き抜いてきたか、これから先はどう生き抜いたらよいか」ということを掘り下げ、駄弁本にまとめようと決めやり出しました。

令和7年6月30日に第1巻、同年9月15日に第2巻を発行できました。どちらもこの事務所便りをお読み下さっている方に、^{すなわ}既に謹呈させて戴いています。今回もこ

の事務所便りに同封してお送りする第3巻で『生き方のハカリ』シリーズは完了となります。

ご多忙の皆様には、このような駄弁本を送り付け、処分に困るのではないかと気に掛けてはいますので、関心のない方はすぐに捨ててください。関心のお有りの方は、斜め読みして下さい。関心のある方のためには、次回の研修会では、この『生き方のハカリ』シリーズを副読本として使用して、「人間はどう生きるべきか」という勉強会を開催します。目次だけでも目を通しておいて戴き、研修会にご出席戴いたら、楽しい研修会になるものと確信しています。

『生き方のハカリ』は、ハカリそのものが^{すがたかたち}姿形がなく、はかる対象も心の中にある「どう生きたらよいか」というもので、姿形がありません。それだけによく考え、掘り下げてみる必要がある問題です。

「法律」というものも生き方のハカリの一つですが、法律という生き方のハカリだけでは足りません。生き方のハカリには、法律の他にも「倫理」とか、「宗教」とか、「学問」とか、「常識」とか、「人情」とか、いくつもあります。これらの『生き方のハカリ』について、いっしょに考え、人生を楽しく生き抜きたいのです。

生き方のハカリは、国や社会などの多くの人で決めるものではなく、一人ひとりの個人の心が決め、一人ひとりの心の中に持ち、一人ひとりが実行するものです。それだけに、一人ひとりがしっかりしなければならない問題です。

私の83年間の人生経験から得た『究極の生き方のハカリ』は、『どうしたら自分が幸せになり、他人を幸せにできるかどうか』というハカリです。自分が幸せとなり、他人を幸せにするためには、この『究極の生き方のハカリ』を自分の心の中にしっかりと構築して、このハカリを使って、自分が幸せになり、他人を幸せにしなければならないのです。

私は、60代の10年間は、闘病生活に明け暮れ、余命宣告も受け、10回を超える手術をし、現代医学の力と身のまわりの人の力でそれらを乗り越え、83歳のいまも健常者と変わらない生活ができています。その経験から得た経験則と脳ミソを絞り出し書き上げた『生き方のハカリ』シリーズを謹呈させて戴きますので、是非目次だけでも目を通して下さい。それらを副読本として『人生 100 年時代』と言われるいま

の世の中をどう生き抜いて人生を楽しみ尽くすか、いっしょに考えてみましょう。

第5回研修会の研修会のご案内



先月号の事務所便りでもいくつか紹介しましたが、第5回研修会は11月22日(土)午前10時から12時までの予定で開催することになっています。もう一度ご案内をさせて戴きます。

前回の第4回研修会では、高齢者は運転免許の返納はすべきかどうかという話を中心に、高齢者の生き方問題などの話をさせて戴きました。人生100年時代となって、高齢者がどのように生きたらよいかということは、誰にとっても関心のある話題であり、会場は盛り上がった気がします。時間がきましたので話は途中となりましたが、第5回研修会ではその続きから始めることになります。

『80歳の壁』という高齢者の生き方について書いた本がベストセラーとなりました。その中で、運転免許はせっかく取得した資格だから高齢者は免許を返納する必要はないという風に述べられていました。私もそれはその通りだと思います。高齢者となって、運転に自信がなくなったら、無理な運転は止め、無理のないところで、無理のない範囲でやればよいと思いますので、免許証の返納まではする必要がないような気がします。

年寄りになって、かえって安全運転を心掛けている人が多く、年寄りの運転は若い人の運転より安全のような気がします。それでも時々、年寄りが逆走したとか、ブレーキとアクセルを間違えて踏んだなどということが大きく報道されますので、年寄りの運転は危ないというイメージが強くなっていますが、私の見た限りでは、年寄りの方が若者よりも安全運転をしていて、危険は少ないような気がします。どうでしょうか。

私は70歳の誕生日に運転免許証は返納しましたが、運転に自信がないという理由ではありませんでした。年寄りになって、これまで以上に自分でなければできないことが多くなり、そこに集中したいという思いでした。事務局や家族に代わってもらえる運転は代わってもらい、車の中では、ストレッチや紛争解決の方法や、駄弁本(だべんぼん)の原稿書きに集中した方がよいという、やりたいことに力を入れたいというポジティブ(前向き、積極的)な考え方によるものでした。

83歳となり、「人生100年時代のこの先をどう生きたらよいか」と本気で考えるようになってきました。この際だから、「これからの人生をどう生きたらいいか」ということ

をはかる『心のハカリ』をつくり上げてみたいと思うようになりました。そして考えた結果、前項でも紹介した3冊の『生き方のハカリ』シリーズという駄弁本を書き上げることができました。

生き方のハカリは、重さをはかるハカリや、長さをはかる物差しのように姿形があるハカリではありません。はかる対象も体重や身長のように姿形のあるものではありません。生き方のハカリは、はかるハカリも、物理的には存在していませんし、はかる対象も物理的には存在していません。ハカリもはかる対象も姿形がないだけに、頭や心の中で考えてつくり出さなければなりません。それだけに、色々なことが考えられ、いくらでも掘り下げられる世界です。11月22日の第5回研修会では、そんな生き方のハカリについて掘り下げてみるつもりです。

「法律」は生き方のハカリという面がありますので、研修会では法律の話もしますが、法律の話に限らず、生き方のハカリの基となっている「宗教」や「倫理」や「学問」や「常識」や「人情」などの広い範囲にわたり、話してみたいのです。

弁護士ですから、法律の話は、専門家としてある程度自信を持って話せますが、その他のことは、あまり自信はありませんが、83歳迄生かされています。この間、大病も繰り返したり、経済的にも追いつめられたり、人間関係においても悩んだりして参りました。

それらの経験の中から生まれた経験則、試行錯誤をしながら見つけ出した生き方のコツ、少ない脳ミソを絞り出して生み出した知恵などがありますので、これらを掘り下げて、本当に役に立つ生き方のハカリを見つけ出したいと思います。弁護士が主催する研修会ですから、法律の知識を得られると期待される方も多いと思います。必ずしも法律に限らずに、生き方のハカリの基となる色々なことをいっしょに考えながら楽しみたいと思いますので、気楽にご参加戴ければ宜しいと思います。

前回8月30日には、ほぼ会場が一杯になる状況でした。皆様にお集まり戴き、心から嬉しく、感謝しています。次回11月22日にも、多くの方にお集まり戴ければ、こんなに嬉しいことはありません。

また改めてご案内は差し上げますが、どうか早目にご予定を組んで戴きたく、まだ一か月位ありますが、とりあえずご案内をさせて戴きたいと思います。楽しい時間を共有したいと思いますので、早目にスケジュール調整をして戴ければと思い、とりあえず、ご案内を差し上げる次第です。